

## 記

1. 「京都市環境基本計画」における「生物多様性プラン」に鑑み、「哲学の道」及びその周辺地域の環境保全の方策を、以下の二点について明確に示すこと。
  - ① 「哲学の道」の環境の土台となるサクラ並木の保全についての方策
  - ② ゲンジボタル及びその生息地（添付資料1 参照）並びにキマダラルリツバメ（添付資料2 参照）の保護・保全についての方策
2. 植生の専門家（とりわけサクラについて見識のある樹木医）、昆虫の専門家への意見聴取を行うこと。
3. 「哲学の道」の路面デザインの検討だけでなく、重層的な機能を持つ道として、自然環境保全の観点から検討されること。
4. 「地球沸騰化の時代」（グテーレス国連事務総長）を踏まえ、土の道の優位性に留意し、「よく整備された土の道」を基本に検討されること。

以 上